

2025年2月21日

各位

株式会社富山第一銀行

構造メンテ株式会社との  
「ファースト・ポジティブ・インパクト・ファイナンス」の契約を締結

株式会社富山第一銀行（頭取 野村 充）は、構造メンテ株式会社（代表取締役 田中 伸次）を評価対象とした「ファースト・ポジティブ・インパクト・ファイナンス」の契約を締結いたしましたのでお知らせします。

本サービスを通じて、取引先の企業活動における環境・社会・経済の3つの側面に対して、インパクトを包括的に特定・分析し、ポジティブインパクトが期待できる活動と、ネガティブインパクトを緩和する活動を支援いたします。

今後も、お客さまに「寄り添う」銀行として、持続可能な社会の実現に向けた企業活動を通じた SDGs の達成に寄与することで、さらなる信認につなげます。

## 記

## 1. 商品概要

本商品は、企業活動が経済・環境・社会に与えるポジティブ並びにネガティブな影響をポジティブインパクト金融原則に基づき特定し、ポジティブインパクト（プラスの影響）を拡大、ネガティブインパクト（マイナスの影響）を緩和することで SDGs 達成を目指すファイナンスの取組です。当行は、インパクトに対する企業活動の影響・取組を包括的に分析・評価を行います。これらのインパクトに対する KPI（重要業績評価指標）についてお客さまとともに設定し、達成状況や取組状況について、定期的にモニタリングし、達成に向けて支援を行ってまいります。客観性を保つため当行が実施した評価について株式会社格付投資情報センターより第三者意見を取得しています。

## 2. 融資概要

契約締結日	2025年2月21日
借入人	構造メンテ株式会社
融資金額	50百万円
資金使途	設備資金（改修、クレーン購入等）
モニタリング期間	10年

※株式会社格付投資情報センター（R&I）のセカンドオピニオンは、下記 URL をご参照ください。  
<https://www.r-i.co.jp/rating/esg/index.html>

## 3. 評価企業概要 構造メンテ株式会社

代表者	代表取締役 田中伸次
本社所在地	富山県射水市若杉 277 番地 23
事業内容	構造物補修補強 コンクリート構造物の剥落防止、断面修復、導水工事等
設立年月	2011年5月

## 4. SDGs 達成に向けた取組事例（詳細は評価書をご参照ください）

取組内容	安心・安全なインフラ整備を通じた地域社会への貢献
インパクトの種類	社会面におけるポジティブインパクトの拡大 経済面におけるポジティブインパクトの拡大
インパクト・カテゴリ	「移動手段」 「包括的で健全な経済」
関連SDGs	 
対応方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インフラ整備工事の受注拡大</li> <li>・地域に根差した企業として、地域インフラの整備に貢献</li> </ul>
毎年モニタリングする目標とKPI	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間工事受注件数を毎年増加させ、2029年5月期の年間受注件数を20件とする。また、全体の件数のうち、半分以上は富山県内の工事受注を目指す。以降は改めて、目標を設定する。 (2024年5月期実績：全体件数10件、富山県内割合50%)</li> <li>・2029年5月期までに国（国土交通省、防衛省）と富山県の公共工事入札資格を取得する。以降は取得した資格を維持する。 (現在は富山県内4市：富山市、高岡市、射水市、砺波市の入札資格を保有)</li> </ul>



構造メンテ株式会社

株式会社富山第一銀行

代表取締役 田中 伸次氏

高岡・清水支店副支店長 本田 豊蔵

【本件に関する問い合わせ先】

法人事業部：松森

TEL 076-461-3871

# ポジティブ・インパクト・ファイナンス評価書

評価対象企業：構造メンテ株式会社



2025年2月21日

株式会社 富山第一銀行

# 目次

1.	はじめに. . . . .	2
2.	会社概要. . . . .	3
	(1) 企業概要	
	(2) 経営理念	
	(3) 沿革	
	(4) 組織図	
	(5) バリューチェーン	
3.	事業概要. . . . .	8
	(1) 点検・調査	
	(2) 注入工事	
	(3) 断面修復工	
	(4) 表面保護工	
	(5) その他工事	
	(6) 主な工事実績	
4.	職場環境. . . . .	15
	(1) 教育制度	
	(2) ダイバーシティ、地域貢献活動他	
	(3) SDGs 宣言	
5.	インパクトの特定. . . . .	20
	(1) インパクトレーダーによるマッピング	
	(2) インパクトカテゴリに対応する SDGs	
	(3) 日本におけるインパクトニーズの確認	
	(4) 老朽化する社会資本への対応	
	(5) 富山県の政策・戦略の確認～とやま未来創生戦略の確認～	
	(6) インパクトの特定	
	(7) 特定したインパクトと富山第一銀行との方向性の確認	
6.	KPI の設定. . . . .	27
7.	管理体制とモニタリング . . . . .	30
	(1) インパクトの管理体制	
	(2) モニタリング方法	

# 1. はじめに

富山第一銀行は、構造メンテ株式会社に対してポジティブ・インパクト・ファイナンスを実施するにあたって、同社の企業活動が、環境・社会・経済に及ぼすインパクト（ポジティブな影響及びネガティブな影響）を分析・評価した。

分析・評価にあたっては、国連環境計画金融イニシアティブ（UNEP FI）が提唱した「ポジティブ・インパクト金融原則」および ESG 金融ハイレベル・パネル設置要領第 2 項（4）に基づき設置された、ポジティブインパクトファイナンスタスクフォースがまとめた「インパクトファイナンスの基本的な考え方」に則った上で、構造メンテ株式会社の企業活動における包括的なインパクトを分析した。

富山第一銀行は、本評価書で特定されたポジティブ・インパクトの拡大とネガティブ・インパクトの抑制に向けた取り組みを支援するため、構造メンテ株式会社に対し、ポジティブ・インパクト・ファイナンスを実行する。

資金調達者の名称	構造メンテ株式会社
調達形態	証書貸付
契約期間（モニタリング期間）	融資実行日から 10 年間
金額	50 百万円
資金用途	設備資金（改修、クレーン購入等）

## 2. 会社概要

### (1) 企業概要

社名	構造メンテ株式会社																												
代表者	代表取締役 田中伸次																												
本社	〒939-0272 富山県射水市若杉 277 番地 23																												
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 構造物補修・補強</li> <li>・ コンクリート構造物の剥落防止、断面修復、導水工事</li> <li>・ 既設トンネル内裏込注入（可塑グラウト、ウレタン注入）、ロックボルト工事</li> <li>・ のり面補修・補強工事</li> <li>・ 基礎調査（調査ボーリング）、補修関連調査</li> <li>・ 労働者派遣事業</li> </ul>																												
創業年月	2008 年 9 月																												
設立年月	2011 年 5 月																												
資本金	9.5 百万円																												
売上高	913 百万円（2024 年 5 月期）																												
従業員	19 名（2024 年 5 月時点）																												
許可・登録	一般建設業 富山県知事許可（般-3）第 14983 号 土木工事業/とび・土工工事業 地質調査業者登録 質 04 第 2625 号 労働者派遣事業 派 16-300287																												
有資格者状況	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">1 級土木施工管理技士</td> <td style="text-align: right;">2 名</td> </tr> <tr> <td>1 級土木施工管理技士補</td> <td style="text-align: right;">3 名</td> </tr> <tr> <td>2 級土木施工管理技士</td> <td style="text-align: right;">4 名</td> </tr> <tr> <td>測量士補</td> <td style="text-align: right;">2 名</td> </tr> <tr> <td>コンクリート診断士</td> <td style="text-align: right;">1 名</td> </tr> <tr> <td>地すべり防止工事士</td> <td style="text-align: right;">2 名</td> </tr> <tr> <td>あと施工アンカー技士</td> <td style="text-align: right;">2 名</td> </tr> <tr> <td>地質調査技士</td> <td style="text-align: right;">1 名</td> </tr> <tr> <td>グラウンドアンカー技士</td> <td style="text-align: right;">1 名</td> </tr> <tr> <td>消防設備士乙種 6 類</td> <td style="text-align: right;">1 名</td> </tr> <tr> <td>運行管理者（貨物）</td> <td style="text-align: right;">1 名</td> </tr> <tr> <td>1 級建設業経理士</td> <td style="text-align: right;">1 名</td> </tr> <tr> <td>2 級建設業経理士</td> <td style="text-align: right;">1 名</td> </tr> <tr> <td>危険物取扱者乙種 4 類</td> <td style="text-align: right;">1 名</td> </tr> </table> （2024 年 5 月時点）	1 級土木施工管理技士	2 名	1 級土木施工管理技士補	3 名	2 級土木施工管理技士	4 名	測量士補	2 名	コンクリート診断士	1 名	地すべり防止工事士	2 名	あと施工アンカー技士	2 名	地質調査技士	1 名	グラウンドアンカー技士	1 名	消防設備士乙種 6 類	1 名	運行管理者（貨物）	1 名	1 級建設業経理士	1 名	2 級建設業経理士	1 名	危険物取扱者乙種 4 類	1 名
1 級土木施工管理技士	2 名																												
1 級土木施工管理技士補	3 名																												
2 級土木施工管理技士	4 名																												
測量士補	2 名																												
コンクリート診断士	1 名																												
地すべり防止工事士	2 名																												
あと施工アンカー技士	2 名																												
地質調査技士	1 名																												
グラウンドアンカー技士	1 名																												
消防設備士乙種 6 類	1 名																												
運行管理者（貨物）	1 名																												
1 級建設業経理士	1 名																												
2 級建設業経理士	1 名																												
危険物取扱者乙種 4 類	1 名																												
事業所一覧	<b>【本社】</b> 〒939-0272 富山県射水市若杉 277 番地 23 TEL：0766-30-3222 <b>【第 1 倉庫】</b> 〒939-0322 富山県射水市上野 114 番地 <b>【第 2 倉庫】</b> 〒939-0038 富山県射水市津幡江 709-1 <b>【高木整備工場】</b> （仮称） ※2025 年 4 月稼働予定 〒939-0281 富山県射水市北高木 136-4,136-11																												

## (2) 経営理念

# 会社理念

永久構造物の維持・管理・更新を当社の使命として

長期的な視点でのお客様への提案、現場での確実な施工を

行うことで、今と未来をつなぐメンテナンスを目指します

# 運営方針

1. 仕事には誠意をもって誠実に仕事すること
2. スピードと行動
3. 協力
4. 原価の管理

限られた公共投資の中でも、永久構造物の維持管理は我々の使命であることを念頭に置き、長期的な視点で客先への提案、現場での確実な施工を行っていく

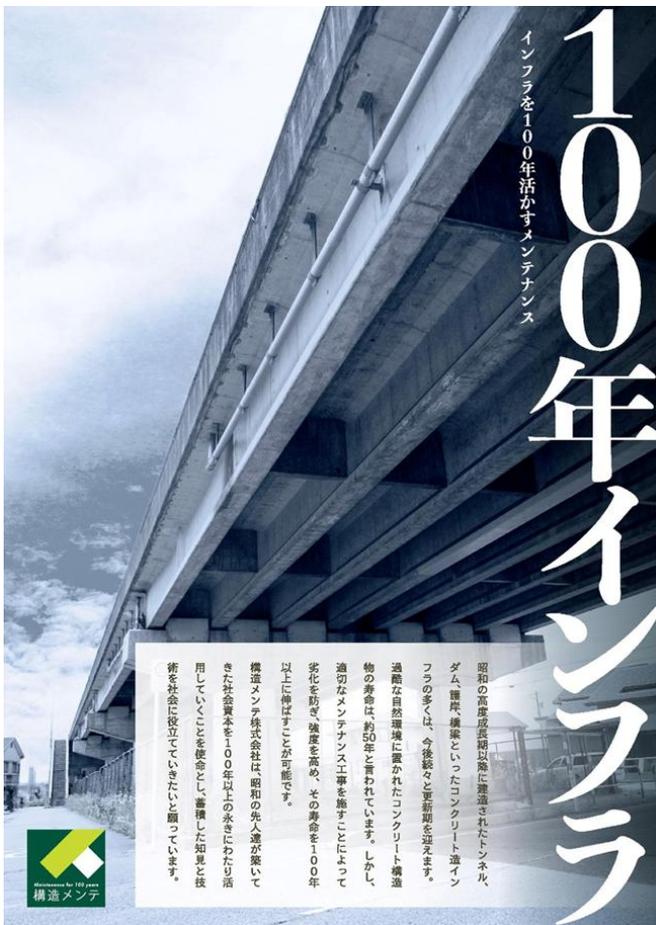
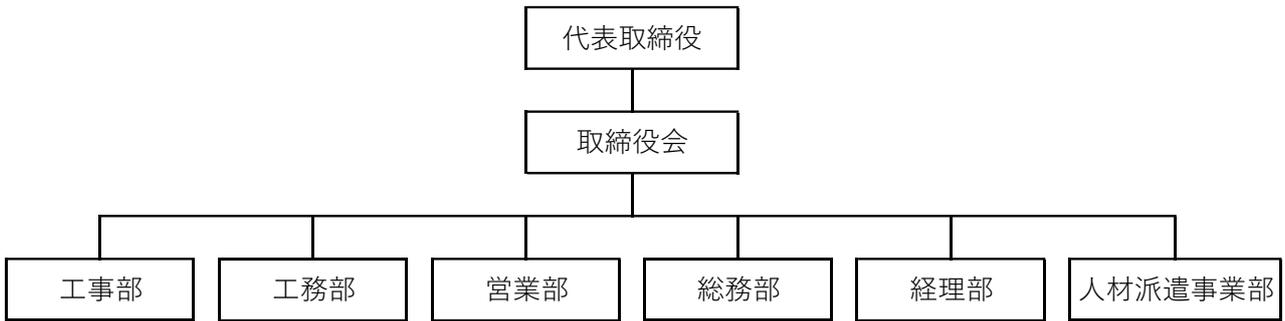


会社設立 10 周年（創業 13 年）を機に、会社ロゴを刷新した。  
ロゴの深緑は自然、黄緑と白の図形は自然の中に築かれた構造物を表す。  
安定感のある正四角形に「K」と「M」（構造メンテ）と「人」の文字が隠れている。  
社会にあるコンクリート構造物を人の手でメンテナンスしていこうという意気込みを示している。

### (3) 沿革

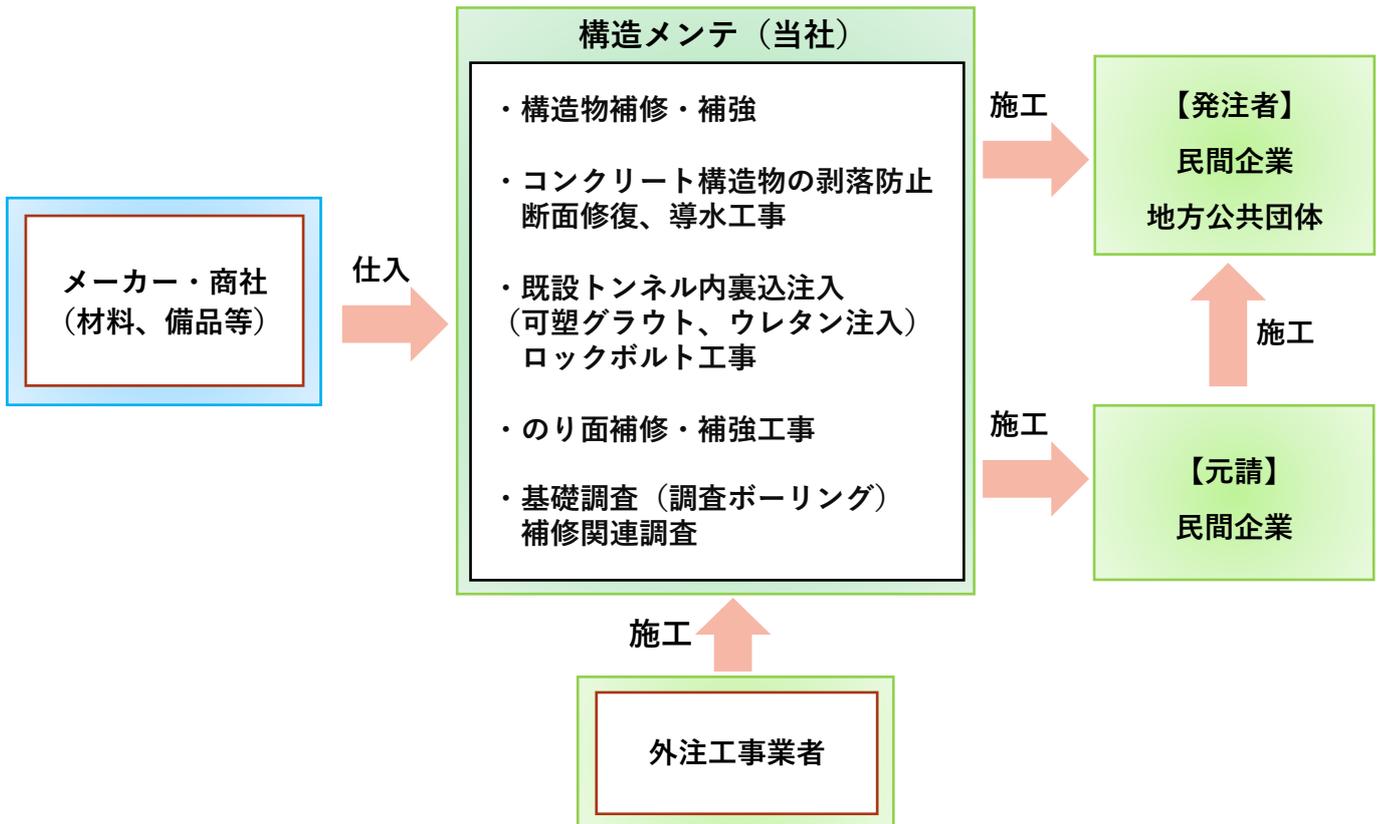
年月	概要
2008年 9月	構造メンテ創業
2008年 10月	一般建設業許可（富山県知事）
2009年 8月	資機材倉庫設置（富山県射水市上野 114 番地）
2011年 5月	会社設立及び本社移転（富山県射水市新開発 452-1）
2012年 12月	地質調査業者登録（国土交通省）
2014年 5月	テクノクリート施工研究会入会
2019年 5月	とやま健康企業宣言 Step1（銀）認定
2022年 1月	本社移転（富山県射水市若杉 277 番地 23）
2022年 5月	安全運転管理者届出
2022年 6月	第1回技能実習生（2名）受入
2022年 10月	富山県 SDGs 宣言
2023年 3月	労働者派遣事業許可（厚生労働省）
2023年 10月	第2回技能実習生（3名）受入
2024年 2月	能登半島地震 寄付金贈呈
2024年 7月	工場及び土地購入（資機材点検整備・保管、実技訓練施設） 2025年4月より正式に稼働予定

(4) 組織図



当社の思いが込められたポスター

## (5) バリューチェーン



当社はトンネル、橋梁、ダム、護岸といったコンクリート構造物の維持・管理・更新を行っている。これらの構造物は社会の重要なインフラであり、長期的な視点で確実な施工を行うことで「今と未来をつなぐ」メンテナンスを目指している。特に当社は小断面トンネル・小規模のり面、斜面のモルタル吹付工事や小断面トンネルの裏込注入（グラウト、ウレタン）など作業・工事スペースが狭い箇所での工事を得意とし、他社との差別化要因にもなっている。一般的にスペースの狭い現場は資材の搬入が難しく、工事施工の難易度も高いが、従業員の高い技術と先進設備の活用、多種多様な仮設工によって様々な現場に対応している。

## 3. 事業概要

### (1) 点検・調査

構造物の変状を見つける点検から劣化程度の把握、劣化原因の推定をすることからの確な対策工事を提案することが可能となる。目視や打音等の調査に加え、接着力や鉄筋探索状況などの各種試験を現地調査として行っている。



トンネル内調査状況



マーキング状況



コンクリート水分測定試験



鉄筋探索状況

### (2) 注入工事

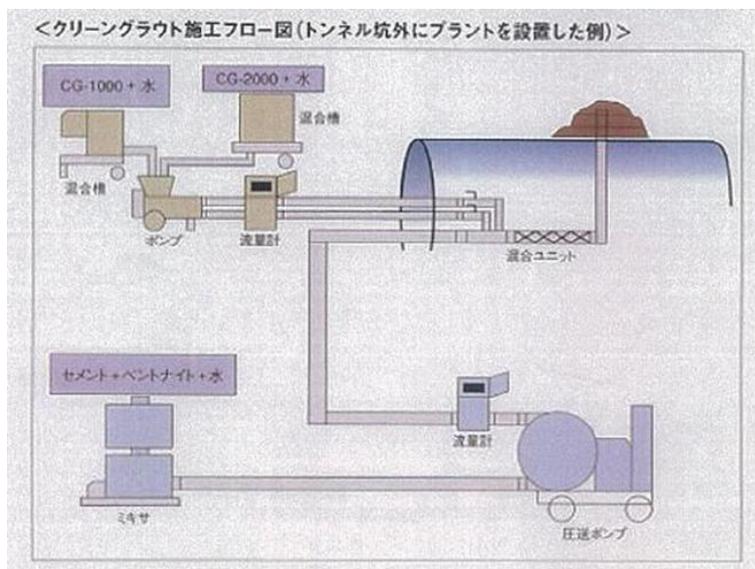
微細なクラックを対象としたひび割れ注入から、トンネル背面の大空洞まで各種の注入工事を行っている。状況に応じて、シリンダー自動低圧樹脂注入、Uカット後シール材充填、セメント系グラウトポンプ注入などを行っている。

また、最近では既設トンネルの覆工背面への注入は地山とトンネルの一体化を図る目的での補強工事が多くなっているが、当社では従来のモルタル系注入材では困難であった、湧水が多い箇所や目的外の部分へ逸走しやすい箇所でも施工が可能な可塑グラウト工事を多く手掛けている。従来のモルタル系注入材は水分に弱く（水で配合が変化）、流動性・逸走性が高いため使用に適した箇所には制約があった。

※可塑（かそ）…思うように物の形をつくれること、整形しやすいこと

## 可塑グラウト工事の特徴

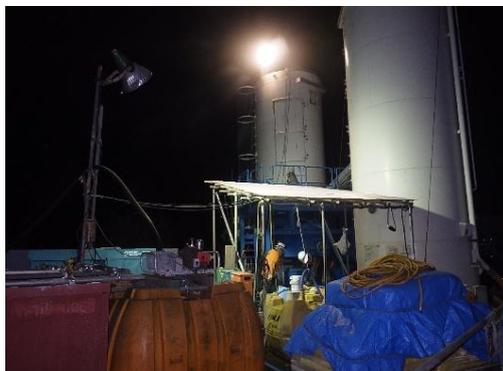
1. 可塑性を有し、限定注入に適している。
2. 地山の小さな亀裂やコンクリートのひび割れ等への逸脱がなく、効率的な注入が可能。
3. 水に対する材料分離抵抗が大きく、均一で安定した強度が得られる。
4. コンパクトな設備で状況に応じたレイアウトが可能。



可塑グラウト注入



流入管理画面



プラント設備全景



可塑モルタルフロー値測定状況

### (3) 断面修復工

既設のトンネル内において補修・補強を行う場合に、簡易な設備にて急速施工を可能とする吹付工法も行っている。(小型急速吹付システム、PCM 吹付工法、テクノショット工法、TDR ショットライニングシステム等) また、従来の人材コテ仕上げに比べて施工能力が高く、鉄筋などがある場合でも吹付材を十分に充填できる高性能ポリマー系湿式吹付工にも対応している。



プラント全景



デンカサタイト (耐硫酸性) 練り上げ状況



吹付状況



専用機械 (Mini Pac システム)

### (4) 表面保護工

表面保護工は既設構造物では、「下地処理 → 断面修復(鉄筋類の防錆工やクラック処理を含む) → 表面保護工」という一連の施工になる。



欠損部の補修モルタル左官工



表面含浸材仕上げ

### (5) その他工事

上記以外にも、現道を規制せずにトンネル内部に大型導水パネルを取り付ける導水工やトンネル補強のロックボルト工、ダム湖等で足場が設置できない時に行う台船式ボーリングなど多種多様な工事に対応している。



導水材の取り付け



ボーリング工



ロックボルト打設



台船固定ボーリング

(6) 主な工事实績

<令和5年度>

No.	工事名	工事内容	着工	完成
1	R4・5・6 高岡管内道路維持工事の内、 法面保護工事	法面保護工 シート張り工（補修）1,000m <sup>2</sup>	R5.7	R5.8
2	市道橋下条 237 号線（無名橋 9） 橋梁補修工事	ひび割れ補修工 2.0m 断面修復工 0.019m <sup>3</sup> 点検孔コンクリート充填 0.153m <sup>3</sup> 表面含浸材塗布工 7.18m <sup>2</sup>	R5.9	R6.3
3	中村地域砂防関係施設整備（急傾斜） 擁壁工事	ひび割れ補修工 370m 表面含浸材塗布工 254m <sup>2</sup>	R5.9	R5.10
4	R5 県営水利施設船生第一工区 水路補修工事	PF モルタル吹付工 （t=30mm 2,111m <sup>2</sup> ）	R5.10	R6.2
5	和田川浄水場上水横流式傾斜板 沈殿池他補修工事	可塑グラウト工 927m <sup>3</sup> ひび割れ補修工 313m	R5.11	R6.5
6	城ヶ平トンネル補修工事	PF モルタル吹付工 （t=70mm 306m <sup>2</sup> ）	R6.2	R6.3
7	馬場島発電所 大規模改修工事の内、 土木工事インバート取壊し打設工事	内巻補修工 62m <sup>2</sup> 無収縮モルタル充填工 水槽壁断面修復工 0.4m <sup>3</sup> 大支台補修 299.8m <sup>2</sup> インバート敷整形清掃 1,150m	R6.5	R6.11
8	黒部専用鉄道上部トンネル改良工事 （黒部宇奈月キャニオンルート安全対策工事）	PF モルタル吹付工 24,000m <sup>2</sup> 耐硫酸モルタル吹付工 （高熱隧道）1,200m <sup>2</sup> ロックボルト工 7,600 本 ウレタン注入 4,500m <sup>3</sup>	R1.10	R6.3

<令和4年度>

No.	工事名	工事内容	着工	完成
1	黒部川第2発電所放水庭護岸 基礎改良工事の内、外面保護工事	PFモルタル吹付工 (t=70mm 295m <sup>2</sup> )	R4.7	R4.9
2	馬場島発電所大規模改修工事の内、 土木工事	鉄管大支台他修繕工事 その1断面補修工	R4.10	R5.6
3	楯無堰地区9号水路 トンネル補修工事その2	PF吹付工 60m <sup>3</sup> (t=50mm 662m <sup>2</sup> 支保工) 下地処理裏面排水	R4.11	R5.2
4	利賀ダム計器養生工事	W=1.0 h=30m 単管式養生工 n=8基	R4.11	R4.11
5	新柳河原 P/S 導水路補修工事	コンクリート剥落 2t 小割片付け工	R4.11	R4.11
6	個人宅クラック注入工事	n=4ヶ所 L=6.0m クラック注入	R4.11	R4.11
7	下田子地下道 BOX 漏水対策工事	BOX内導水アーチドレン	R4.12	R4.12
8	浜ノ浦隧道長寿命化修繕工事	トンネル補修 97m <sup>2</sup> PF吹付け仮設一式	R5.1	R5.1
9	読書ダム湛水池調査	台船リース、組立・解体	R5.1	R5.3
10	石積補修対策検討業務	護岸補修設計(積算及び比較表) 報告書一式	R5.2	R5.3
11	馬場島発電所土木設備大規模 改修工事の内、内巻補強工(白萩工区)	下地処理(高圧洗浄工) FRPグリッド設置 PCM吹付 4.885m <sup>2</sup>	R5.5	R5.11
12	砺波中野放水路護岸補修工事	水路清掃作業	R5.3	R5.3
13	庄東第一発電所大規模改良(リプレール) 工事の内、放水路仮締切継手充填工	継手充填工 13箇所	R5.4	R5.6
14	出平ダム底質調査ボーリング工事	水中部 l=17.0 礫混り土砂 10m n=1本	R5.4	R5.5
15	馬場島発電所土木設備大規模改修工事の内、 内巻補強工(立山川工区)	下地処理工、FRPグリッド工、 PCM吹付(t=15mm) 11.548 m <sup>2</sup>	R5.5	R5.10

< 令和3年度 >

No.	工事名	工事内容	着工	完成
1	馬場島発電所土木設備 大規模改修工事の内、補修工	空洞充填工 2,800m <sup>3</sup> 断面修復工 184m <sup>2</sup> ロックボルト工 クラック注入工	R3.6	R3.12
2	富山地方鉄道連続立体交差事業 仮線工事の内、調査ボーリング	調査ボーリング L=30m 標準貫入試験 30回	R3.6	R3.7
3	小矢部川維持管理工事	高圧洗浄 164m <sup>2</sup> テクノショット工法 3.3m <sup>3</sup> 排水孔 65本 ラス金網張り 280m <sup>2</sup>	R3.9	R3.12
4	高瀬川第5発電所上流側導水路 補修工事	高圧洗浄 240m <sup>2</sup> モルタル吹付 28.6m <sup>3</sup>	R3.10	R3.11
5	新柳河原発電所出し清水縦坑角落し戸 修繕工事	充填工 15m <sup>3</sup>	R3.11	R3.12
6	新柳河原発電所出し清水横坑閉塞用 角落し補修工事2次	注入工 n=4ヶ所 (1m <sup>3</sup> ) 充填工 15m <sup>3</sup> 仮設工一式	R3.10	R3.12
7	かんがい排水事業、楯無堰地区9号 水路トンネル補修工事	PFモルタル吹付 t=50mm 1,278.26m <sup>2</sup>	R3.10	R4.5
8	北陸・土木官庁諸工事 除雪による進入車両監視	高速道路通行止め時の規制 及び監視	R3.12	R4.2
9	R3・4・5能越管内道路維持工事 R160号窪1号地下道漏水対策工	防水シリコン粘着シート 貼付工 6.6m	R4.3	R4.3
10	鳥取県営水力発電所再整備・運営等事業 日野川第1発電所小原導水路補修工事に 伴う水路補修工事	ラス金網張り PFモルタル吹付工 (t=70mm)	R4.5	R5.3

## 4. 職場環境

### (1) 教育制度

#### ① キャリア形成支援

- 入社時から効果的かつ着実にスキルアップすることをイメージした、「キャリア形成支援制度に関する計画書」を策定済み。
- 入社後1～5年におけるそれぞれの階層で必要な知識やスキルを体系的に学んでいく。研修の具体的な内容は下記の通り。



研修名	内容	考え方
①新規採用 訓練	ビジネスマナー 就業規則 社会人としての対応	自立した社会人として求められる視点や判断基準、それに基づいた仕事の進め方、社会人として信頼されるビジネスマナーなどの習得が今後のキャリアアップに資する。
②工事基礎 研修	1年目：土木工事の種類 2年目：補修工事の概要 3年目：地すべり、のり面、注入の概要	工事業の基礎的知識を習得する。
③工事实務 研修	1年目：エクセル・ワードの基礎 2年目：エクセル・ワードの応用、 CAD 基礎 3年目：エクセル・ワードの実践、 CAD 応用	IT 技術を利用したネットワークの知識を活用する。 各種機器を相互に利活用することでキャリアアップに資する。
④関連資格 取得研修	1年目：特別講習、技能講習 2年目：2級土木施工管理技士 3年目：1級土木施工管理技士 4年目：コンクリート診断士	資格取得によるキャリアアップの促進を図る。
⑤現場リーダー 研修	2年目：リーダーとしての知識習得 (職長教育、社内教育) 3年目：リーダー長としての知識・労務 管理、リスクアセスメント 4年目以降：実行予算、見積書作成、 公共事業積算	専門知識以外についての理解を深め、マネジメントを向上させることで責任ある職務に従事し、部門方針の理解とプロジェクトを円滑に遂行することを合わせ、本人の将来的なビジョンの形成と会社の核となる人材育成に資する。

## ② 資格取得支援制度

- 資格試験、技能講習、特別教育などの技能・資格取得にかかる費用は全て会社負担とし、従業員の資格取得を支援している。

## ③ 各種講習

- 実技講習をはじめ、安全講習やコミュニケーション講習、パワハラ防止講習などの各種講習を定期的に行い、知識・技能のブラッシュアップを図っている。

- 講習の内容によっては外部の専門家を招致するなど、内容の充実に努めている。一方、保有設備の社内検査においては、「特定自主検査事業内検査者」の資格取得を進めており、外部業者での検査ではなく検査の内製化を行う予定。また、資格取得者が社内での講師となり、技術指導を行うことも可能となる。

- 作業効率の改善と従業員の負担軽減を目的に工事や調査においては率先して先端技術の導入を進めている。直近では「ハスクバーナー製無線吹付ロボット DXR140 改」(※)の導入を行っており、実際の工事現場での活用に向けて、講習を重ねている。  
※吹付用アタッチメントをバケットに付け替えてバックホウとして使用可能



- 日々の研鑽や安全意識向上の成果として、取引先より多数の表彰状や感謝状を頂戴している。



外部講師による社内講習会



自社倉庫での実技講習会



取引先からの表彰状や感謝状

## (2) ダイバーシティ、地域貢献活動他

### ① 外国人材

- 外国人技能実習生を2022年に1期生2名、2023年に2期生3名をそれぞれ受け入れしており、その5名が現在も在籍している。業務だけでなく、日本語教育や地域行事への積極的な関与によりコミュニケーションの充実を図っている。
- 2024年には技能実習生ではない外国人労働者を1名採用しており、技能実習生の通訳や世話役としても活躍している。

### ② 地域貢献活動

- 地域に根差した企業を目指して、獅子舞や清掃活動などの地域行事への参加、富山県の「交通安全チャレンジ1・2・3運動」への参加、寄付・募金活動なども積極的に展開している。



地域行事（獅子舞）への参加



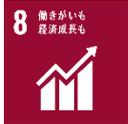
技能実習生の社会見学

### ③ その他

- 従業員の心身の健康に配慮し、従業員が働きやすい職場の実現を目指している。ストレスチェックの実施や4週8休（完全週休二日制）の実施、月1日（年間12日）の有給取得の推奨を行っている。
- 従業員の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に実践する健康経営に取り組むための基礎的な位置づけである、「とやま健康企業宣言」のStep1（銀）の認定を取得済み。今後はStep1の発展で労働安全性を含めた健康経営の実現に向けて、Step2（金）の認定や経済産業省健康経営優良法人認定に向けて取り組みを加速させていく方針。

### (3) SDGs 宣言

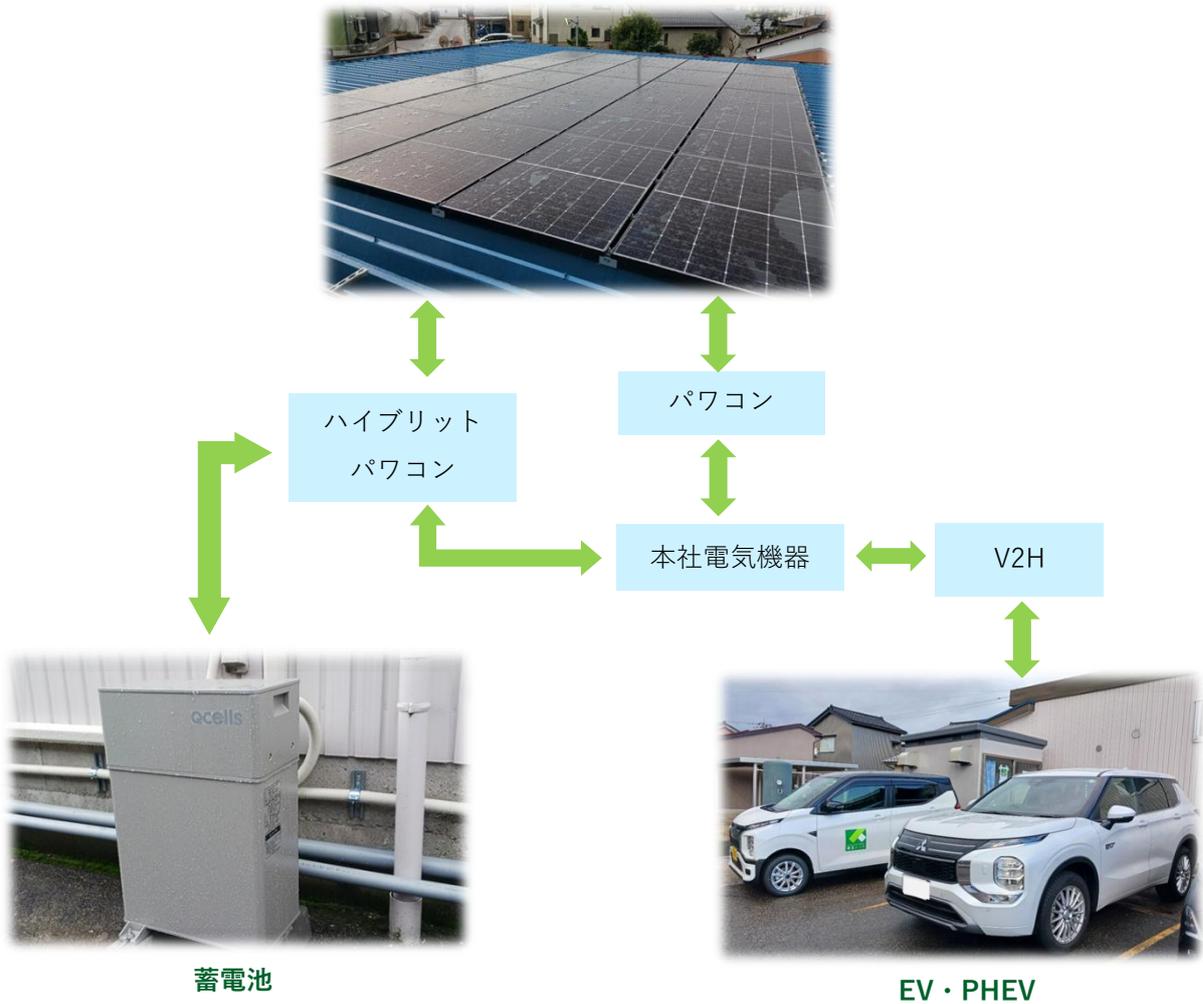
当社は 2022 年 10 月に富山県 SDGs 宣言を行い、Web サイトに宣言書を掲載し、具体的な取り組みを進めている。2024 年 4 月には当初の宣言に対する進捗を報告しており、各目標に対する取り組み状況は以下の通り。

No.	SDGs の達成に向けた目標と取り組みの実施状況	対応 SDGs
1	<b>【目標】</b> 社会インフラの長寿命化に貢献	 
	<b>【実施状況】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>山岳トンネル改良工事、老朽化した水力発電所導水路等の施設、水路及び道路トンネル、擁壁、橋梁、浄水場施設の補修工事を施工し、発注者の要望に応じてデンカアクアライニング工法や可塑モルタル注入工法を導入。</li> </ul>	
2	<b>【目標】</b> 環境負荷低減に向けた能動的な取り組み	  
	<b>【実施状況】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>普通貨物車にハイブリッド車 1 台を導入。</li> <li>設備投資として省エネ型高圧洗浄機を購入。</li> <li>デンカアクアライニング工法を導入し、吹付時のリバウンド量を低減して産業廃棄物の削減を図った。</li> </ul>	
3	<b>【目標】</b> 社会に信頼される技術者の育成	  
	<b>【実施状況】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>新入社員採用の際には、入社後約一カ月間を研修・教育期間と位置付けて、各種技能教育・安全衛生教育等の受講スケジュールを組み、業務上必要と思われる講習を受講したうえで現場へ配属した。</li> <li>4 週 7 休制の導入など、年間休日数を増やす取り組みを行った。</li> </ul>	

上記にも記載のあるように、当社はカーボンニュートラルや脱炭素といった社会的な情勢を意識し、サステナブル経営の実現に向けて環境負荷軽減への能動的な取り組みを進めている。今年度は本社社屋に太陽光発電パネルの設置、蓄電池の設置、EV・PHEV 各 1 台の導入、V2H (※) の導入を一挙に行い、GHG (温室効果ガス) 排出の抑制、再生可能エネルギーの活用を進めている。今後はエネルギー使用量の把握 (見える化) を行い、計画的に GHG 排出量を削減していく方針。※V2H…「Vehicle to Home」の略称で、車から家へという意味。電気自動車やプラグインハイブリッド車のバッテリーに貯めている電力を自宅や事務所で使えるようにする機器のこと。

<当社における再生可能エネルギーの活用>

太陽光発電



太陽光発電パネル、蓄電池、EV・PHEV をまとめて連携し、創出した電気を最大限有効活用することを目指す。環境負荷の軽減だけでなく、災害・停電の際の備えにもなり、有事の際の事業継続にも寄与する。

富山県SDGs宣言



構造メンテ株式会社はSDGsの達成のため、  
以下について取り組むことを宣言します。

永久構造物の維持・管理・更新を当社の使命として長期的な視点でのお客様への提案、現場での確実な施工を行うことで、今と未来をつなぐメンテナンスを目指します。

## 5. インパクトの特定

### (1) インパクトレーダーによるマッピング

当社の事業内容とバリューチェーンの分析結果をもとに主要・関連業務を特定し、UNEP FI が推奨するインパクトマッピングを実施。ポジティブインパクト及びネガティブインパクトの分布を調査した。

当社の主要事業は、国際産業標準分類に則り、「道路・鉄道建設業(4210)」「その他の土木工事業(4290)」「その他の専門工事業(4390)」を適用した。川上の事業には「その他のゴム製品製造業(2219)」「コンクリート製品、セメント製品及び石膏製品製造業(2395)」「廃棄物・スクラップ及び他に分類されないその他の製品の卸売業(4669)」を適用した。なお、川下については民間企業と地方公共団体が該当するが、対象が多岐に渡るため分析を割愛する。

分布図中の「◆◆」は重要な影響があるカテゴリ、「◆」は影響があるカテゴリを示しており、当社の事業活動における「◆◆」「◆」の影響を検討する。

国際産業標準分類	インパクトカテゴリー	川上の事業						当社の事業					
		2219		2395		4669		4210		4290		4390	
		Positive	Negative										
社会	水(入手)												
	食糧												
	住居			◆								◆◆	
	健康・衛生		◆			◆			◆		◆		
	教育												
	雇用	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆◆	◆	◆◆	◆	◆	◆
	エネルギー												
	移動手段							◆◆					
	情報												
	文化・伝統								◆		◆		
	人格と人の安全保障												
	正義・公正												
	強固な制度												
平和・安定													
環境	水(質)		◆◆		◆		◆		◆		◆		
	大気		◆		◆		◆		◆		◆		
	土壌		◆◆						◆		◆		
	生物多様性と生態系サービス						◆		◆		◆		
	資源効率・安全性		◆		◆		◆		◆		◆		
	気候		◆		◆		◆		◆		◆		
	廃棄物		◆◆		◆		◆		◆		◆		◆
経済	包括的で健全な経済	◆		◆				◆◆		◆◆			
	経済収束					◆		◆◆	◆	◆◆			

インパクトマッピングにおいて、ポジティブとして重要な影響があると考えられるインパクトカテゴリは「雇用」「移動手段」「包括的で健全な経済」「経済収束」、影響があると考えられるインパクトカテゴリは「健康・衛生」「資源効率・安全性」「気候」「廃棄物」が挙げられた。ネガティブとして重要な影響があると考えられるインパクトカテゴリは「水（質）」「土壌」「廃棄物」、影響があると考えられるインパクトカテゴリは「健康・衛生」「雇用」「大気」「生物多様性と生態系サービス」「資源効率・安全性」「気候」「経済収束」が挙げられた。なお、「住居」「文化・伝統」は当社事業との関連性が希薄のため、分析対象外とする。

#### 【社会面、経済面】

当社は2008年の創業以来、一貫してトンネルや橋梁、ダムといったコンクリート構造物の維持・管理・更新を行ってきた。これらのコンクリート構造物は社会の重要なインフラであり、経済を支える根幹である。また、人々の日々の生活にも密接に関わっている。構造物の立地状況や老朽化の程度、必要とされる工法・技術は様々であり、どのような案件にも対応できるよう常に技術を磨いている。先端技術・設備を積極的に導入し、効率化と品質の向上にも注力している。社会インフラを将来に渡り、安心・安全に利用できるよう当社がメンテナンスすることは、「移動手段」「包括的で健全な経済」「経済収束」におけるポジティブインパクトの拡大に寄与している。また、先端技術や設備の導入に加えて、従業員自身のスキルアップにも注力している。土木施工管理技士をはじめとした様々な工事士・技士の資格取得を推奨し、費用負担も含めて取得を支援している。有資格者の増加は会社としての対応力強化に繋がり、個々のモチベーションアップにも寄与する。資格だけでなく、技能や知識の向上を目的に社内での講習会や勉強会も積極的に開催して、従業員のレベルアップを目指している。これらの取り組みは「雇用」におけるポジティブインパクトの拡大に寄与している。

建設業界は一般的に3K（きつい・汚い・危険）というイメージを抱かれることが多く、実際に当社においても雨風にさらされる現場、トンネル・橋梁における高所・閉所での作業も存在する。そのような環境による影響を少しでも改善・緩和するために、当社では先端技術・設備を積極的に導入している。従来は手作業で行っていたことに機械（ロボット）を活用することで従業員の作業負担が大きく軽減され、効率化により現場に滞在する時間も短くなる。従業員のケガや事故を防止することにも繋がり、安全性も高まる。この取り組みは「健康・衛生」「雇用」におけるネガティブインパクトの抑制に寄与している。

#### 【環境面】

一般に様々な工事を行う過程で、水や土壌をはじめとした環境・生態系への悪影響が懸念されるが、当社においては廃棄物や廃材を適切に処理することはもちろん、先端技術・設備の導入により影響を最小限に留める工夫を行っている。最近の設備は環境配慮型となっており、作業効率の改善も相まって環境への影響は少ない。また、本業での取り組み以外にも、本社に太陽光発電設備や蓄電池、EV・PHEVなどを導入し、GHG（温室効果ガス）排出量削減やエネルギー効率の改善などサステナブルな事業展開を行っている。これらの取り組みは「水（質）」「大気」「土壌」「生物多様性と生態系サービス」「資源効率・安全性」「気候」「廃棄物」におけるネガティブインパクトの抑制に寄与している。

## (2) インパクトカテゴリに対応する SDGs

当社の売上高は全て日本における事業であり、日本の SDGs ダッシュボードから当社のインパクトとの関係性について確認する。今回特定したインパクトと関連の高い SDGs は下記となる。



## (3) 日本におけるインパクトニーズの確認

持続可能な開発ソリューションネットワーク (SDSN) に掲載されている日本のダッシュボードによると、大きな課題が残る項目が「赤色」、重要な課題が残る項目が「橙色」、課題が残るのが「黄色」、目標達成が「緑色」となる。

今回特定したインパクトと対応する SDGs のゴール 4 項目のうち、1 項目が大きな課題が残る、2 項目が重要な課題が残る項目である。日本に課題が残る項目が 3 項目該当していることから、日本における同社のインパクトは重要度が高いと判断する。



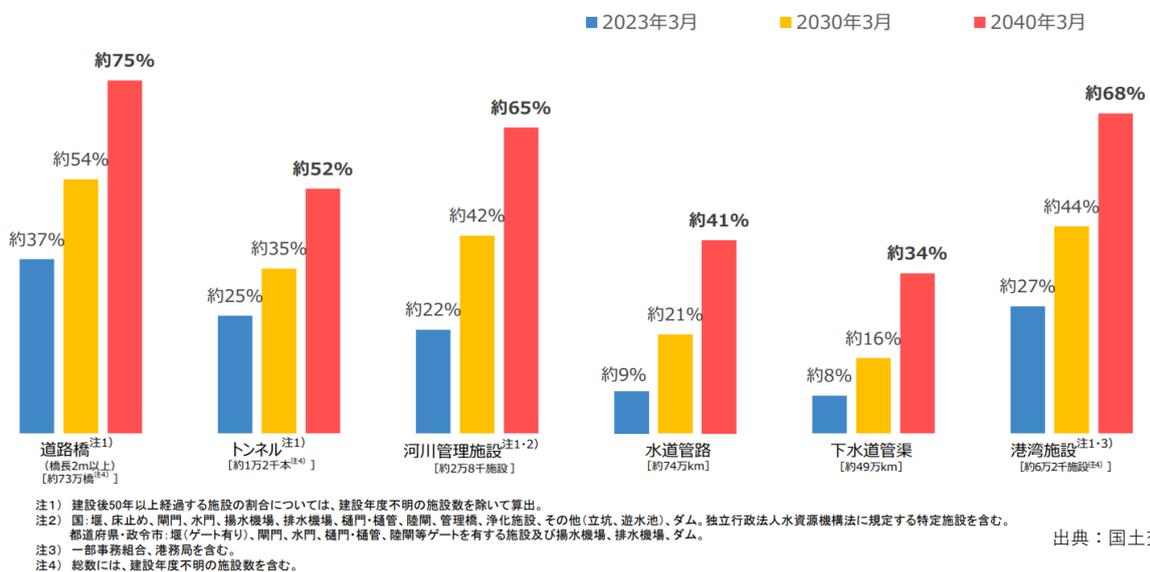
出典：SDGs ダッシュボード

#### (4) 老朽化する社会資本への対応

道路やトンネル、橋梁、上下水道などのインフラは社会および経済活動の根幹であるが、高度経済成長期に集中的に整備されたこれらのインフラは老朽化が進行し、その点検・診断・修繕に対する重要性やコストが増加している。特に先進国においては2021年のG20でインフラの適切なメンテナンスによる経済的利益が示されたことで、近年はインフラメンテナンスの投資としての観点に注目が集まっている。日本において、今後20年間で建設後50年以上が経過する施設の割合は加速度的に高くなる見込みであり、一斉に老朽化する社会資本を戦略的に維持管理・更新することが求められている。

メンテナンス不足によるインフラ老朽化への対応は以前より進められているが、解消には至っていない。日本でも2012年の笹子トンネル崩落事故を受けて「インフラ長寿命化基本計画」を策定し、対策を進めている。しかし、日米の土木学会が公表しているインフラ健康診断結果によると、Aから始まる5段階評価の内ほとんどが劣化状態を示すC、Dランクとされている。

<日本における建設後50年以上経過する社会資本の割合> (2023年3月現在)



増加する重要性やコストに対応するためには、戦略的かつテクノロジーを活用して対応していく必要がある。これまで人の手で行われてきた点検・診断にドローンや画像解析、データ解析技術を導入することや、機械の活用などによる現場作業コスト低減、精度向上と均一化により、インフラの計画～廃止・更新までのライフサイクルコスト(LCC)を低減することが求められる。インフラは建設された年代ごとに工法や材料が異なるうえ、設置環境や事故・自然災害の影響もあって劣化状況が一律ではないため、個々に点検・診断が必要となる。

点検は、量が多く効率も悪いことが現状の課題と言える。日本では橋梁、トンネル、下水道(腐食の恐れが大きい箇所)について5年ごとに全設備の点検が義務付けられ、その数は膨大になる。加えてインフラは各地に分散しており、高所や地下、通行止めを伴うなど作業環境が悪く手間がかかる。また、建設業界の人手不足も深刻であることから、効率化が必須となっている。近年はカメラやセンサーを用いた効率化が注目されており、実際に点検者の目視検査とハンマーの反響音から内部を推定していた打音検査では、カメラと画像解析技術が一部で導入されている。また、道路、トンネルでは、レーザースキャナとデジタルカメラを一般車両に搭載し、比較的高速で走行しながら連続的に画像データ取得が可能となった。橋梁の空中部の検査は、特殊車両やロープアクセスが必要であったが2013年頃からカメラ搭載のドローンを用いた検査が可能になった。診断についても画像解析技術の活用でカメラ画像から傷やクラック、さびなどの変状を自動抽出することが可能となり、効率化と精度向上、均一化が図られている。

<点検・診断手法の従来と代替・効率化技術>

対象	点検		診断	
	従来	代替・効率化技術	従来	代替・効率化技術
道路	巡回目視	レーザー測位・カメラ 搭載車両	人の目や耳による判断	画像解析による傷やクラック、さびなどの変状を自動抽出、データ解析による異常検出
トンネル	目視、打音	レーザー測位・カメラ 搭載車両、センサー		
橋梁	目視、打音 (特殊車両、 ロープアクセス)	カメラ搭載ドローン、 センサー		
下水管路	目視、カメラ	カメラ搭載ロボット		
上水管路	目視、カメラ、 音聴	センサー		

(参考) インフラ長寿命化基本計画の概要

- 個別施設毎の長寿命化計画を核として、メンテナンスサイクルを構築
- メンテナンスサイクルの実行や体制の構築等により、トータルコストを縮減・平準化
- 産官学の連携により、新技術を開発・メンテナンス産業を育成

<p><b>1. 目指すべき姿</b></p> <p><b>○安全で強靱なインフラシステムの構築</b></p> <p>➢ メンテナンス技術の基盤強化、新技術の開発・導入を通じ、厳しい地形、多様な気象条件、度重なる大規模災害等の脆弱性に対応 【目標】老朽化に起因する重要インフラの重大事故ゼロ（2030年）等</p> <p><b>○総合的・一体的なインフラマネジメントの実現</b></p> <p>➢ 人材の確保も含めた包括的なインフラマネジメントにより、インフラ機能を適正化・維持し、効率的に持続可能で活力ある未来を実現 【目標】適切な点検・修繕等により行動計画で対象とした全ての施設の健全性を確保（2020年頃）等</p> <p><b>○メンテナンス産業によるインフラビジネスの競争力強化</b></p> <p>➢ 今後のインフラビジネスの柱となるメンテナンス産業で、世界のフロントランナーの地位を獲得 【目標】点検・補修等のセンサー・ロボット等の世界市場の3割を獲得（2030年）</p>	<p><b>3. 計画の策定内容</b></p> <p><b>○インフラ長寿命化計画（行動計画）</b></p> <p>➢ 計画的な点検や修繕等の取組を実施する必要性が認められる全てのインフラでメンテナンスサイクルを構築・継続・発展させるための取組の方針（対象施設の現状と課題／維持管理・更新コストの見直し／必要施策に係る取組の方向性 等）</p> <p><b>○個別施設毎の長寿命化計画（個別施設計画）</b></p> <p>➢ 施設毎のメンテナンスサイクルの実施計画（対策の優先順位の考え方／個別施設の状態等／対策内容と時期／対策費用 等）</p>																
<p><b>2. 基本的な考え方</b></p> <p><b>○インフラ機能の確実かつ効率的な確保</b></p> <p>➢ メンテナンスサイクルの構築や多段階の対策により、安全・安心を確保 ➢ 予防保全型維持管理の導入、必要性の低い施設の統廃合等によりトータルコストを縮減・平準化し、インフラ投資の持続可能性を確保</p> <p><b>○メンテナンス産業の育成</b></p> <p>➢ 産学官連携の下、新技術の開発・積極公開により民間開発を活性化させ、世界の最先端へ誘導</p> <p><b>○多様な施策・主体との連携</b></p> <p>➢ 防災・減災対策等との連携により、維持管理・更新を効率化 ➢ 政府・産業界・地域社会の相互連携を強化し、限られた予算や人材で安全性や利便性を維持・向上</p>	<p><b>4. 必要施策の方向性</b></p> <table border="1"> <tr> <td>点検・診断</td> <td>定期的な点検による劣化・損傷の程度や原因の把握 等</td> </tr> <tr> <td>修繕・更新</td> <td>優先順位に基づく効率的かつ効果的な修繕・更新の実施 等</td> </tr> <tr> <td>基準類の整備</td> <td>施設の特性を踏まえたマニュアル等の整備、新たな知見の反映 等</td> </tr> <tr> <td>情報基盤の整備と活用</td> <td>電子化された維持管理情報の収集・蓄積、予防的な対策等への利活用 等</td> </tr> <tr> <td>新技術の開発・導入</td> <td>ICT、センサー、ロボット、非破壊検査、補修・補強、新材料等に関する技術等の開発・積極的な活用 等</td> </tr> <tr> <td>予算管理</td> <td>新技術の活用やインフラ機能の適正化による維持管理・更新コストの縮減、平準化 等</td> </tr> <tr> <td>体制の構築</td> <td>[国]技術等の支援体制の構築、資格・研修制度の充実 [地方公共団体等]維持管理・更新部門への人員の適正配置、 国の支援制度等の積極的な活用 [民間企業]入札契約制度の改善 等</td> </tr> <tr> <td>法令等の整備</td> <td>基準類の体系的な整備 等</td> </tr> </table>	点検・診断	定期的な点検による劣化・損傷の程度や原因の把握 等	修繕・更新	優先順位に基づく効率的かつ効果的な修繕・更新の実施 等	基準類の整備	施設の特性を踏まえたマニュアル等の整備、新たな知見の反映 等	情報基盤の整備と活用	電子化された維持管理情報の収集・蓄積、予防的な対策等への利活用 等	新技術の開発・導入	ICT、センサー、ロボット、非破壊検査、補修・補強、新材料等に関する技術等の開発・積極的な活用 等	予算管理	新技術の活用やインフラ機能の適正化による維持管理・更新コストの縮減、平準化 等	体制の構築	[国]技術等の支援体制の構築、資格・研修制度の充実 [地方公共団体等]維持管理・更新部門への人員の適正配置、 国の支援制度等の積極的な活用 [民間企業]入札契約制度の改善 等	法令等の整備	基準類の体系的な整備 等
点検・診断	定期的な点検による劣化・損傷の程度や原因の把握 等																
修繕・更新	優先順位に基づく効率的かつ効果的な修繕・更新の実施 等																
基準類の整備	施設の特性を踏まえたマニュアル等の整備、新たな知見の反映 等																
情報基盤の整備と活用	電子化された維持管理情報の収集・蓄積、予防的な対策等への利活用 等																
新技術の開発・導入	ICT、センサー、ロボット、非破壊検査、補修・補強、新材料等に関する技術等の開発・積極的な活用 等																
予算管理	新技術の活用やインフラ機能の適正化による維持管理・更新コストの縮減、平準化 等																
体制の構築	[国]技術等の支援体制の構築、資格・研修制度の充実 [地方公共団体等]維持管理・更新部門への人員の適正配置、 国の支援制度等の積極的な活用 [民間企業]入札契約制度の改善 等																
法令等の整備	基準類の体系的な整備 等																
	<p><b>5. その他</b></p> <p>➢ 戦略的なインフラの維持管理・更新に向けた産学官の役割の明示 ➢ 計画のフォローアップの実施</p>																

出典：国土交通省 インフラ長寿命化基本計画

## (5) 富山県の政策・戦略の確認 ～とやま未来創生戦略の確認～

富山県は、約 4,248 km<sup>2</sup>の広さを有し、医薬品や機械、電子部品等を中心としたものづくり産業が盛んな日本海側有数の中核都市として発展してきた。水深 1,000mの「海の幸の宝庫」富山湾から 3,000m級の北アルプス立山連峰まで、自然豊かで多様な地勢を誇り、広大な森林面積や全国有数の水力資源、地熱資源に恵まれ再生可能エネルギーのポテンシャル（潜在可能性）が高いことも特徴である。

人口減少、少子・超高齢社会が進行する中、このような地勢を背景として、富山県では本県の自然、文化産業など各地域の特色、強みを活かした持続可能で活力ある未来を創造するため、平成 27 年 10 月から「とやま未来創生戦略」を、令和 2 年度から「第 2 期とやま未来創生戦略」を策定した。

第 2 期とやま未来創生戦略は、基本目標 1. 結婚・出産・子育ての願いが叶う環境整備、基本目標 2. 産業振興、若者等の雇用創出、観光振興、県内への移住促進、基本目標 3. 若者・女性・高齢者など多様な人材の確保と労働生産性の向上、基本目標 4. 活力あるまち・健やかな暮らし・未来を担う人づくりを掲げている。

基本目標 4 の活力あるまち・健やかな暮らし・未来を担う人づくりにおける、③持続可能で安心して暮らせる地域の環境づくりでは、豊かで快適な環境づくりと安全・安心の確保を掲げており、当社が行う将来を見据えた社会インフラの整備はまさに富山県が目指す地域の環境づくりに合致しており、富山県の目指す「持続可能で安心して暮らせる地域の環境づくり」に大きく貢献している。

また、当社の職場環境の面では技能実習生の積極的な採用や従業員のスキルアップ支援、先端技術・設備の積極導入を行っており、これらは富山県が基本目標 3 の中に掲げる外国人材の活躍や多様な人材の確保・育成、労働生産性の向上に寄与する取り組みと言える。

基本目標 1	基本目標 2	基本目標 3	基本目標 4
<p><b>結婚・出産・子育ての願いが叶う環境整備</b></p> <p>① 結婚から子育てまで切れ目のない支援による少子化対策の推進</p> <p>(ア) 結婚・妊娠・出産支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○結婚を希望する男女の出会いの場の提供</li> <li>○ライフプラン教育の充実</li> <li>○若者・女性を中心とした移住・UJターンの促進</li> <li>○妊娠、出産、健やかな子どもの成長のための環境整備</li> </ul> <p>(イ) 家庭・地域における子育て支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○多様な保育・子育て支援サービスの充実</li> <li>○子育て支援人材の育成</li> <li>○子育て家庭の経済的負担の軽減</li> </ul> <p>(ウ) 職場における子育て支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○仕事と子育ての両立支援に向けた職場環境の整備促進</li> </ul> <p>② 働き方改革を進めたいわゆる生活の実現による少子化対策の推進</p> <p>(ア) 長時間労働の是正や柔軟な働き方の推進など働き方改革の推進</p> <p>(イ) 男性の家事・育児参加の促進</p>	<p><b>産業振興、若者等の雇用創出、観光振興、県内への移住促進</b></p> <p>① 産業・地域経済の活性化</p> <p>(ア) 富山県の強みを活かした成長産業の育成</p> <p>(イ) 中小・小規模企業の振興</p> <p>(ウ) 企業立地等の促進</p> <p>(エ) 農林水産業の振興</p> <p>(オ) 環境・エネルギー産業の育成</p> <p>② 若者や女性がいきいきと働き暮らせる魅力ある地域づくり</p> <p>(ア) 若者・女性の就業支援・県内定着の促進</p> <p>(イ) 高等教育機関の魅力向上</p> <p>(ウ) 地域の魅力創生</p> <p>③ 観光の振興</p> <p>(ア) 選ばれ続ける観光地づくり</p> <p>(イ) 富山のブランド力アップ</p> <p>④ 移住・定住の環境づくり、応援人口の創出・拡大等</p> <p>(ア) 移住・定住の環境づくり</p> <p>(イ) 応援人口の創出・拡大</p> <p>(ウ) 多様な形態を通じた地域企業への人材の展開・選抜につながる取組み支援</p>	<p><b>若者・女性・高齢者など多様な人材の確保と労働生産性の向上</b></p> <p>① 若者や女性が輝いて働ける環境づくり</p> <p>(ア) 若者がチャレンジし活躍できる環境づくり</p> <p>(イ) 様々な分野で活躍できる女性人材育成</p> <p>(ウ) 女性の再就職支援</p> <p>② 高齢者等が能力を発揮して活躍できる社会の実現</p> <p>(ア) 元気な高齢者が活躍するための支援</p> <p>(イ) 誰もがいきいきと働き活躍できる場の創出</p> <p>③ 外国人材活躍の促進と多文化共生の地域づくり</p> <p>(ア) 外国人材活躍の促進</p> <p>(イ) 多文化共生の地域づくり</p> <p>④ 多様な人材の確保・育成と労働生産性の向上</p> <p>(ア) 多様な人材の確保</p> <p>(イ) ものづくり分野や観光分野などでの人材育成</p> <p>(ウ) 働き方改革を通じた労働生産性の向上</p> <p>(エ) 産業の高度化・高付加価値化の実現を通じた労働生産性の向上</p>	<p><b>活力あるまち・健やかな暮らし・未来を担う人づくり</b></p> <p>① 交通ネットワーク整備と活力あるまちづくり</p> <p>(ア) 陸・海・空の交通基盤整備</p> <p>(イ) 快適で活力ある魅力的なまちづくり</p> <p>② 人生100年時代を見据えた人づくり</p> <p>(ア) 健康寿命の延伸</p> <p>(イ) 医療や福祉の充実</p> <p>(ウ) 教育力の向上</p> <p>(エ) 未来を担う人材育成</p> <p>(オ) リカレント教育の推進</p> <p>(カ) 生涯にわたる学びの推進</p> <p>(キ) 心の元気を醸成する文化の振興</p> <p>③ 持続可能で安心して暮らせる地域の環境づくり</p> <p>(ア) 豊かで快適な環境づくり</p> <p>(イ) 安全・安心の確保</p> <p>④ 豊かで魅力ある中山間地域の実現</p> <p>(ア) 地域コミュニティの活性化</p> <p>(イ) 地域経済の活性化</p> <p>(ウ) 住民生活へ必要不可欠なサービスの確保</p>

出典：富山県 第 2 期とやま未来創生戦略

## (6) インパクトの特定

- 安心・安全なインフラ整備を通じた地域社会への貢献
- 環境負荷低減に向けた取り組みの強化
- 全従業員が働きがいを持ち、スキルアップできる職場環境の構築

## (7) 特定したインパクトと富山第一銀行との方向性の確認

当社のバリューチェーン分析、インパクトマッピング、日本におけるニーズや富山県のとやま未来創生戦略のニーズや方向性等を踏まえて、同社と特に関連性の高いインパクトを整理した。特定したインパクトと富山第一銀行のサステナビリティ方針の方向性が同じであることを確認する。

今回特定したインパクトは「安心・安全なインフラ整備を通じた地域社会への貢献」「環境負荷低減に向けた取り組みの強化」「全従業員が働きがいを持ち、スキルアップできる職場環境の構築」である。富山第一銀行では、サステナビリティ方針の中で、「1.地域経済の持続的な成長」「2.地域社会の持続的な発展」「3.環境保全」「4.健全な企業経営」の4点を、サステナビリティを巡るマテリアリティ（重点課題）としている。

「安心・安全なインフラ整備を通じた地域社会への貢献」では、「1.地域経済の持続的な成長」「2.地域社会の持続的な発展」という観点で、「環境負荷低減に向けた取り組みの強化」では「3.環境保全」という観点で、「全従業員が働きがいを持ち、スキルアップできる職場環境の構築」では「4.健全な企業経営」の観点で方向性が一致する。

以上より、本ポジティブ・インパクト・ファイナンスに取り組むことで、環境問題や地域社会・経済を取り巻く課題に対して持続可能な社会の実現に貢献し得る資金の提供が可能となり、本ファイナンスを通じてSDGs達成に向けた取り組みの支援を目指す。

## 6. KPI の設定

### ● 安心・安全なインフラ整備を通じた地域社会への貢献

当社は本業である、トンネルや橋梁をはじめとした社会インフラの整備を通じて社会への貢献を目指す。社会インフラは経済活動を支える重要な要素であり、経済面への寄与も大きい。受注する工事件数を増加させることでインパクトを拡大させつつ、地域企業として地場での工事ウエイトも高めていく方針。また、多種多様な工事に対応できること、高い技術力の裏付けとして元請としての工事受注も増加させていく方針。

項目	内容
インパクトの種類	社会面のポジティブインパクトの拡大 経済面のポジティブインパクトの拡大
インパクトカテゴリ	「移動手段」 「包括的で健全な経済」
関連 SDGs	 
対応方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インフラ整備工事の受注拡大</li> <li>・地域に根差した企業として、地域インフラの整備に貢献</li> </ul>
KPI	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間工事受注件数を毎年増加させ、2029年5月期の年間受注件数を20件とする。また、全体の件数のうち、半分以上は富山県内の工事受注を目指す。以降は改めて、目標を設定する。 (2024年5月期実績：全体件数10件、富山県内割合50%)</li> <li>・2029年5月期までに国（国土交通省、防衛省）と富山県の公共工事入札資格を取得する。以降は取得した資格を維持する。 (現在は富山県内4市：富山市、高岡市、射水市、砺波市 の入札資格を保有)</li> </ul>

※当社の受注工事はトンネルや橋梁、ダムなど全て社会インフラを対象にしている。KPIの達成状況の確認にあたっては、受注工事全てを対象とする。（元請工事・下請工事の区別も行わない）

● 環境負荷低減に向けた取り組みの強化

当社は社会的な情勢を意識し、サステナブル経営の実現に向けて環境負荷軽減への能動的な取り組みを進めている。今後も本業である工事業の拡大と同時に、持続可能な会社であり続けるために、環境面への配慮を維持・強化していく。

項目	内容
インパクトの種類	環境面のネガティブインパクトの抑制
インパクトカテゴリ	「気候」
関連 SDGs	
対応方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 電力や軽油をはじめとしたエネルギー消費の見える化と削減</li> </ul>
KPI	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2026年5月期までに GHG 排出量の把握（見える化）を行い、以降は前期の排出量を下回るよう削減を進める。</li> <li>・ 2028年5月期までに SBT 認証の取得を行い、以降は計画に沿った GHG 排出量の削減を進める。</li> </ul>

● 全従業員が働きがいを持ち、スキルアップできる職場環境の構築

日本全体、とりわけ建設業界において人材不足が顕著な状況が続いているが、当社においては全従業員が働きがいを持ち、高いモチベーションで働いていける職場環境を構築することで人材確保に努めている。また、従業員の資格取得やスキルアップは個々のモチベーションだけでなく、施工する工事の品質にも直結することから会社全体の業績にも寄与するもの。会社として、従業員のスキルアップ支援、従業員の心身の健康に配慮した働きやすい職場環境の実現を目指していく。

項目	内容
インパクトの種類	社会面のポジティブインパクトの拡大 社会面のネガティブインパクトの抑制
インパクトカテゴリ	「雇用」
関連 SDGs	
対応方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資格取得支援を通じた従業員のスキルアップ</li> <li>・ 労働安全性を含めた健康経営の強化を通じた従業員の心身の健康増進</li> </ul>
KPI	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社内の有資格者を毎年度 2 名ずつ増加させる。 (2024 年 5 月期実績：21 名)</li> <li>・ 2027 年 5 月期までに健康経営優良法人（経済産業省）の認定取得ととやま健康企業宣言 Step2（金）の認定取得を行い、以降は認定を維持する。 〔現在はとやま健康企業宣言 Step1（銀）を保有〕</li> </ul>

※有資格者の増加にかかる対象資格は下記の通りとする。

1 級土木施工管理技士、1 級土木施工管理技士補、2 級土木施工管理技士、  
2 級土木施工管理技士補、測量士補、コンクリート診断士、コンクリート技士、  
地すべり防止工事士、あと施工アンカー技士、地質調査技士、グラウンドアンカー技士、  
1 級建設業経理士、2 級建設業経理士、登録機械土工基幹技能者、危険物取扱者乙種 4 類  
特定自主検査事業内検査者

## 7. 管理体制とモニタリング

### (1) インパクトの管理体制

当社は、代表取締役の田中様を中心にサステナビリティに関する方針・施策の決定や、重要課題（マテリアリティ）の検討、推進、進捗状況のレビューなどを行っている。

本件におけるインパクトについては、上森様が中心となり、管理・KPI 達成に向けた施策を実施する。

最高責任者	代表取締役 田中伸次
管理責任者	総務部 上森靖彦
管理部署	総務部

### (2) モニタリング方法

本ポジティブ・インパクト・ファイナンスで設定した KPI の達成及び進捗状況については、富山第一銀行と当社とで定期的に面談の場を設けて共有する。本面談は少なくとも年 1 回実施するほか、日頃の情報交換や営業活動の場などを通じて実施する。

富山第一銀行からは、KPI 達成に必要な資金およびその他ノウハウの提供あるいは富山第一銀行の持つネットワークから外部資源とマッチングすることで、KPI の達成をサポートする。

モニタリング期間中に達成した KPI に関しては、達成後もその水準を維持していることを確認する。なお、経営環境の変化などにより KPI を変更する必要がある場合は、富山第一銀行と当社が協議の上、再設定を検討する。

注意事項・免責事項

1. 本評価書は、富山第一銀行が構造メンテ株式会社から提供された情報や独自に収集した情報に基づく現時点での計画または状況に対する評価で、将来におけるポジティブな成果を保証するものではありません。
2. 富山第一銀行は、本評価書を利用したことにより発生するいかなる費用または損害について、一切責任を負いません。

● 本件に関するお問い合わせ先

株式会社富山第一銀行

法人事業部 コンサルティングチーム

〒930-8630

富山市西町5番1号（TOYAMA キラリ 7F）

TEL (076) 461-3871